

いるのだと思われず。少年化は進行し、時代の劣化も度を強めていけるやに思えます。また愛が冷え、いのちの大切さが叫ばれるわりには、人間の尊厳が軽んじられる現象がそちこちに見られます。教育をめぐる環境も劣悪化する傾向に歯止めがかかりません。こうした憂うべき事例については枚挙の暇がないのです。

しかし、それゆえにこそ青山学院のスクール・モットー、そして教育方針はますます重みと意味を増しているのではないのでしょうか。「よこしまな曲った時代の中で、星のように輝き、命の言葉をしっかりと保つてしよう」。(フイリピの信徒の手紙二・一五―一六)とある如くです。

次代を担う幼児、青少年そして青年が青山学院にてかけがえのない人格として成長し、本人も「ここで学べてよかった」「良き師と友に出会って恵まれた」と感謝できるよう祈り続けようではありませんか。院長室にて「青山学院」と改名した二代日本多庸一院長の肖像画が飾ってあり、先生と向き合いつつ執務しています。

本多院長はこういう言葉を残し

ておられます。

「人間が人間らしく生きるためには、人間はどこからきたのかを知らなければならぬ」と気づいた。そう考えたとき神こそ根源であることを知った。人間の立脚するところが定まれば人間の価値も決まり、価値が決まれば人間の本命も明らかになった」(護教) 根源たる主イエスの父なる神のもと共に進み行きましよう。

(*役職名は当時のまま)

プロフィール

- 1941年生まれ
- 1963年立教大学文学部キリスト教学科卒業
- 1966年東京神学大学院修士課程修了
- 1966年日本基督教団品川教会・三崎町教会・聖ヶ丘教会牧師(1977年まで)
- 1977年日本基督教団聖ヶ丘教会主任牧師(現在に至る)
- 2002年東京神学大学評議員・理事(現在に至る)
- 日本基督教団総会議長(現在に至る)
- 2005年日本キリスト教連合会委員長(現在に至る)
- 2010年日本宗教連盟理事長(現在に至る)
- 1988年、2010年 東洋英和女学院短期大学、青山学院女子短期大学などで教える

副院長就任にあたって

井 田 昌 之



2010年5月、おもいもかけず理事就任の依頼があり、さまざまな状況の中でそれをお受けして1カ月経った頃、山北宣久院長(当時就任予定者)から連絡があった。「副院長として仕事を手伝ってほしい」。これには拒否する筋合いは全くないのでお受けした。ともかくもヨナは二ネベに赴いた。任期は1年。さあなにができるのか。広報部より原稿執筆の依頼を受けたので、所感を書かせていただきたい、読者のご理解とご支援をいただきたく思っている。

院長を補佐するという役員

学校法人青山学院の寄附行為には、副院長という役職について、「置くことができる」という性格

と「院長を補佐する」という性質が記されている。理事長は寄附行為に記載のように、外部に対して青山学院を代表する職務がある。一方、院長は「教学の長」としての職務がある。院長はキリスト者であることの規定があるが、現在の規定では学院のトップである理事長には過去のいきさつからかそうした規定はない。理事長は常勤の常務理事複数名によってその職務の遂行が支えられている。しかし、院長は独自の常勤の補佐役の存在は規定されていない。つまり理念を示す院長という仕事は、院長個人にかかっている形になっていると理解できる。これを、副院長は支える職務があるが、常勤でない者としては限界がある。理事長と院長あるいはそれに相当する役職の関係をどのようにもつのかということはおそらく多くの学校法人における課題であると考えている。副院長の仕事は、その状況を、日々の補佐ということから、特命された実体的な仕事があればそれも結果として担うことと理解

している。紙面にかぎりがあるので、今考えていること、感想めいたことなどを以下に短く記したい。

たえず改革されていくこと、継承することは継承すること、ひとりひとりが活かされること。

組織の在り方、あるいは学校法人の運営は常に最良を求めてチェックし、必要に応じて直していく必要がある。世の中はかわっていくし、また、停滞する組織はよどみを生む。一方で、青山学院が護つてきたものがある。全体として動くべきこと、同時に、ひとりひとりが生き生きと参加することがある。これらのバランスをみながら前進する必要がある。

プロフィール

青山学院大学理工学部経営工学科卒業
同大学院理工学研究科経営工学専攻博士課程修了 工学博士
マサチューセッツ工科大学人工知能研究所 Visiting Scientist
ハーバード大学 Center for High Performance Computing, Guest lecturer & advisor
工業技術院電子技術総合研究所情報アーキテクチャ部非常勤研究員
財団法人国際情報化協力センター客員上席研究員・評議員
青山学院大学理工学部、情報科学研究センターを経て、国際政治経済学部教授
青山学院大学国際交流センター副所長（現在に至る）
青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授（現在に至る）
学校法人青山学院理事・評議員（現在に至る）

半田正夫氏、新理事長に選任される

二〇一〇年九月三〇日をもって退任となった松澤建理事長の後任として、九月一五日開催の学校法人青山学院理事会は、学校法人青山学院寄附行為第一〇条の規定に基づき、理事長に半田 正夫氏を選任しました。
任期 二〇一〇年一〇月一日～二〇一二年三月三十一日（理事任期に同じ）

山北宣久氏、第一三代院長に選任される

五月二七日開催の学校法人青山学院理事会は、学校法人青山学院寄附行為第六条及び同細則第四条の規定により、評議員会の答申に基づいて院長選任選挙を行い、第一三代院長に山北 宣久氏を選任しました。
任期 二〇一〇年七月一日～二〇一四年六月三〇日

学校法人役員等改選

次のとおり改選されました。

理事

院長

就任

山北 宣久氏

二〇一〇年七月一日付

評議員から（宣教師又はプロテスタント教会教職者から）

退任

藤村 和義氏

二〇一〇年六月二十九日付

就任

大村 栄氏

二〇一〇年六月三〇日付

学識経験者から

退任

松澤 建氏

二〇一〇年九月三〇日付

就任

井田 昌之氏

二〇一〇年五月三〇日付

監事

就任

安藤 豊美氏

二〇一〇年六月三〇日付

評議員

院長

就任

山北 宣久氏

二〇一〇年七月一日付

宣教師又はプロテスタント教会教職者から（教会教職者から）

退任

藤村 和義氏

二〇一〇年六月二十九日付

就任

大村 栄氏

二〇一〇年六月三〇日付

学識経験者から

就任

井田 昌之氏

二〇一〇年五月三〇日付

常務理事

退任

半田 正夫氏

二〇一〇年九月三〇日付

顧問

退任

古宮 敬一氏

二〇一〇年九月三〇日付